

まちづくり市民意見交換会 開催結果

1. 開催目的

第7次総合計画策定に向け、上越市の現状と課題や令和22年（2040年）の人口予測等を説明し、将来のまちの理想の姿やその実現に向けた取組などについて意見交換を行い、計画に反映することを目的とする。

2. 内 容

- ・市からの話題提供：上越市の現状とこれからのまちづくりについて
- ・4人程度のグループに分かれ以下2点について意見交換を行った
 - ①「10年後、20年後、上越市はどんなまちになっていけばいいと思うか」
 - ②「上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思うか」

3. 会場別の開催状況（参加者数：72人）

日 時	会 場	参加者数
5月10日（火）18：30～20：00	板倉コミュニティプラザ 市民ホール	15
5月11日（水）18：30～20：00	浦川原コミュニティプラザ 市民ホール	12
5月12日（木）18：30～20：00	ユートピアくびき希望館 第3会議室	14
5月13日（金）18：30～20：00	市民プラザ 第3会議室	13
5月14日（土）14：30～16：00	市民プラザ 第3会議室	18
合 計		72

※参加者の年代層：20代～80代、そのうち60代以上が全体の53%であった。

（市民意見交換会の様子）



4. ウェブでの意見募集（意見者数：65人）

4月25日（月）～5月20日（金）まで、市ホームページにて市民意見交換会と同様に①②の意見を伺った。

※意見者の年代層：10代～70代、そのうち30代以下が全体の69%であった。

5. 主な意見

市民が主役のまちづくり

- ・子どもが大人になった頃、安心して帰ってこいと言えるまち (30代)
- ・子どもが帰ってきたいと思うまち。地域で受け入れてくれるまち (30、60代)
- ・こどももおとなも安心し、ここが自分の居場所と思いながら暮らせるまち (40代)
- ・人口減少率が県内でも一番少ないまち (20、40代)
- ・コミュニティが維持されたまち。思いやりがあって助け合いができるまち (60、70代)
- ・都会の価値観ではなく、多様な価値観で自分らしくいられて、楽しいまち (40代)
- ・上越市を象徴するもの、突き抜けたものを磨き、市民が誇りに思うまち (30、40代)
- ・「上越と言えばこれ!」といった市民が一つになれる一体感があるまち (50代)
- ・市民が上越市の魅力について学ぶ機会があり、好きになっている (20代)
- ・転出した人の子ども世代にアプローチし、上越に馴染みのある人が移住する (20代)
- ・無理なく働き子育てしながら、田舎の暮らし方が楽しめるまち (40代)
- ・UIJ ターン者を支援する仕組みはある。上越市から転出しない若者への優遇 (30代)
- ・若い人、女性、障害のある人…様々な人がまちづくりに関わっているまち (40代)
- ・自分事としてまちのことを考えている人がたくさんいて、市民活動が盛んなまち (70)
- ・まちづくりのリーダーが育てられているまち (70代)
- ・若手キーマンの活躍を行政がサポートし、市内でも認知度が上がっているまち (60代)
- ・上越に住んでいなくても関わったり応援できるまちづくり。定住につなげる (70代)
- ・定年が伸びている中、地域行事を行う余力がない。続ける行事、やめる行事があってもよいと思う。都会のように栄えることは不可能だから、コンパクトシティ化を行うなどして、綺麗に幕を閉じる (20代)
- ・それぞれの地域の特性を活かす、地域ごとの計画があるまち (70代)
- ・区で行っている地域の祭りなど、区単位で区切らず、実行委員に他地域の人が入るなど、外部とも交流しながら取り組む (20代)
- ・自分たちが頑張らなくても街は発展するという意識を変えるべき (20代)

防災・防犯分野

- ・空き家等の荒廃した建物がなく、治安が良く子どもが安心して外で遊べるまち (70代)
- ・治安が良く、子どもたちが元気に体を動かせるようまち (20代)
- ・災害に強く、安心安全に暮らせる (40代)
- ・災害があっても被害を少なくして、自然豊かに暮らせるまち (70代)

環境分野

- ・豊富な水資源や、雪国ならではの利点をいかしたまち (20代)
- ・自然が美しいまち。草刈りで手入れされていれば、ポイ捨てもされない (40代)
- ・心豊かで持続可能な社会を子どもたちに届けることができるまち (60代)

健康福祉分野

- ・子育て世帯にとって住みやすいまち。経済的サポートと情緒的サポート（30代）
- ・子育てや老後に安心して暮らせるまち（30代）
- ・障害者に優しく、引きこもりが解消されたり、精神的に元気になれるまち（60代）
- ・一人になっても自分の住みたいところに住み続けられる見通しがあるまち（40、50代）
- ・子育て、教育、医療制度が充実したまち（40代）
- ・若者世代を支えるためにも、高齢者が健康で働ける場の創出が必要（40代）
- ・保育園の費用が無料で、保育園に預けて働き、市内に稼ぎを生み出せるまち（30代）
- ・不妊治療の助成（20代）
- ・高校生や大学生よりも20代社会人に生活困窮者がおり、サポートがあるといい（20代）

産業・経済分野

- ・人が入ってきてくれるまち。観光客がたくさん来てくれて、賑やかで、さらに上越の良さを知った人が商売を始め雇用があり、住んでみたいと思ってもらえるまち（60代）
- ・デジタルを活用し、様々な業種がそろい、若者が働く場を選択できる（20、40代）
- ・人口減少で困っていることを若者がビジネスチャンスとして可能性を感じるまち（30代）
- ・市外に住んでいる人の意見を聞いて取り入れ、戻りたくなるまち（20代）
- ・活気があふれ、20代後半から30代が来たいと思えるまち（20代）
- ・企業すべてが子育て世帯に休みやすい環境を整えているまち（30代）
- ・事業者は従業員に市内の歴史文化、スポーツ、地域活動等に触れる機会を作る（20代）
- ・大型スーパー、商業施設を充実させて、商店街にも人の流れを作り、たくさんの方が訪れ賑わいのあるまち（40代）
- ・商店街に活気があって、ぶらぶら歩きながら買い物やお茶ができる場所、食べ歩きができるまち（20、40代）
- ・魅力的な企業の誘致。直江津は新しいお店が進出して、少し変化した気がする（40代）
- ・長野、富山、新潟エリアとの連携。隣県を見習い、具体案を考える（40代）
- ・うみがたりだけに頼らず、既存の施設と一緒に楽しめるルートや催しをPRする（60代）
- ・ふるさと納税が充実し、訪れてみたくなる、再訪したくなるまち（30代）
- ・賃金の高い地域に人が流出している。市内企業に働きかけ賃金を上げる（30代）
- ・SNS情報発信で、県外の友人に自慢できる魅力があり、帰省が楽しみになるまち（20代）
- ・農業移住よりも、東京で夢破れた層に上越暮らしを売り込み、活躍してもらおう（30代）
- ・男性がフルタイム、女性がパートタイムといった女性軽視は子育てしづらい（30代）

農林水産分野

- ・市民が中山間地域の重要性、棚田の機能等を認識し、維持に協力している（40代）
- ・豊かな食、田んぼや里山の美しい景色が受け継がれているまち（60代）
- ・無農薬で安心安全な食べ物で子どもを育てることが魅力なまち（30、40代）
- ・地域の特産物など小さな地域の特色を大事にして稼ぐ（大企業とは反対の発想）（40代）
- ・6次産業が盛んで、若者が農業に関心を持ち、担い手となっている（60代）
- ・食料危機に陥らないまち（50代）

教育・文化分野
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に力を入れて子どもたちが活躍できるまち（40代） ・外国人材が活躍し子どもと関わることで、国際感覚を育てる教育（20代） ・大人が上越を楽しんでいる姿を見せ、子どもも上越に興味をもつ（50代） ・「あなたは地域の大事な一員」といった意識を育て、子どもに残ってもらう教育（50代） ・「ここは田舎だから、何もない」といった漠然とした劣等感を子どもに受け継がせない。足を運び地元を知る。歴史を知ることで上越への愛着が生まれる。市外に出かけ上越の特性を振り返ったり、都市に触れることで視野が広がり多様な考えに寛容になる（20代） ・子どもたちや若い世代への楽しく、良い記憶づくりができているまち（20、40代） ・有料でもいいから雨天でも遊べる屋内施設があり、子どもが楽しく過ごせる（30代） ・新潟市のサッカーのようにスポーツ事業を盛んにし、他県他市から愛されるまち（30代） ・若者が市外に行かなくても希望する専門学校や大学があるまち（50代） ・子どもが自己肯定感を高め、夢や希望をもって過ごすことができるまち（40代） ・1度社会に出ても、学び直しができるまち（40代） ・新しいものを積極的に取り入れ、古いものを大切にすまち（20代） ・奨学金をもらっても返済でその後の人生が拘束されるのは楽ではない（10代）
都市基盤分野
<ul style="list-style-type: none"> ・交通網が整備され、年寄、独り暮らし世帯、障害者の住み良いまち（40代） ・各高校行きのバスが整備され子育て世帯にとって住みやすいまち。送迎負担があり女性は職種も自由に選べない（30代） ・せっかく新幹線が停まる駅があるのだから、駅周辺に商業施設が多くあるといい（40代） ・五智公園や高田公園に軽食のキッチンカーが時々いてくれたら、魅力が高まる（60代） ・空き家への移住支援で空き家が活用されている。特に都会から戻ってくる人向け（40代） ・こどもも大人も集う場所ができ、地域のつながりができる場所がある（40代） ・たにはま公園がネモフィラの花で満開になるまち。新緑の時の魅力を高める（30代） ・歴史に囚われすぎている。新しい時代を作ることも大切。若者が楽しめる施設を増やす（10、20代） ・雪が多い日は仕事を休んでもいいまち（20代） ・除雪に必要な免許取得費用を補助し、若者に魅力的な仕事として技術を引き継ぐ（30代）
その他、行財政など
<ul style="list-style-type: none"> ・将来世代のことを考えたまちづくり。不要な施設や事業の見直し、未来への投資（30代） ・民間企業の力をいかしたまちづくり。市役所業務のアウトソーシング（30、60代） ・行政主導ではなく、やりたいことがある市民を行政が物理的、金銭的に支援（30代） ・人口減少は仕方ないので、それぞれがのんびり生きていけるまち（30代） ・県内第三都市ならず、第二都市を目指すまち（30代） ・議員や役所職員がやりがいをもって、いきいきと働いているまち（40代） ・高齢者や一部の人の声だけではなく、若者等の意見を聞く工夫でまちづくりを進めてほしい（30代） ・市内で少数派になってしまっている若者の意見がまちづくりに反映されたまち（50代）